

令和8年度 第1回審議会の振り返り

— 令和8年度 第1回 飯田市これからの学校のあり方審議会 会議録概要

開催日時	令和8年6月8日(月) 19:00~21:15
開催会場	飯田市役所 C棟 3階 C311~C313 会議室
出席者	審議会委員：後藤 正幸、三浦 弥生、會川 百樹、原 雅彦、玉置 洋一、飯島 政樹、 (敬称略) 松岡 香代子、佐々木 俊昭、島岡 秀樹、村山 雅也、勝野 久美恵、 久保田 和樹、北沢 綾音、(オンライン)坂野 慎二、井出 隆安 オブザーバー(敬称略)：北澤 正光(飯田市教育長職務代理)
配布資料	1 次第 2 飯田市これからの学校のあり方審議会条例 3 委員名簿 4 事務局名簿 5 配席図 6 令和7年度第4回審議会の振り返り 7 遠山郷学園における小学校の再編について 8 論点2 課題を共有するための課題の明確化について 9 論点3 学園地域における協議・検討期間及び時期 10 学園の児童生徒数の推移及び学校施設の状況
令和8年度第1回第1回飯田市これからの学校のあり方審議会の開会に先立ち4名の委員交代に伴う任命書の交付等を実施 ○任命書交付 ○新任委員 自己紹介 ○人事異動に伴う事務局の交代 ○会議成立確認及び会議録・委員名の公開確認 _____ 1 開会 ・ 条例第7条第1項に基づき、後藤会長が議長となり開会 2 熊谷教育長あいさつ ・ 皆様こんばんは。日が長くなってまいりまして、暑い時間も長くなっているように思います。こどもたちにとっては、特に中学生は、部活動の練習に熱が入っている時期でありますけれども、今年度中には、土日の学校部活動も地域クラブ活動へ移行していくこととなっております、様々な意味で教育のあり方自体が大きな変化を求められている時代になってきております。 ・ 本日は、遠くからお越しいただいた委員はじめ、オンラインでは坂野委員と井出委員にご出席いただいております。今年度もお世話になりますが、よろしくお願いいたします。 ・ さて、つい最近ですが、国勢調査の結果が出て、市議会での飯田市長のコメントにもありましたが、昨年度の国勢調査の結果として、飯田市の人口が9万652人という人口になったということがわかりました。かつては10万人都市という時代があったわけですが、人口減少としては想定している以上の速さで少子化が進んでいると実感するところでございます。 ・ 例えば、今年度の児童生徒数を見ましても、中学校3年生は870人、小学校1年生は660人です。この9年間の差で、210人のこどもたちが減っているという現状を見ますと、これは飯田市だけではなく、全国各地で起こっている同様な現象でありまして、これに対応すべく、どうしていったら良いのかということは、今、大きな教育の話題の一つだと思っています。 ・ また、飯田市では、令和5年度から飯田市これからの学校のあり方審議会をスタートしまして、この審議会も4年目を迎えております。前半の2年間では、特色と魅力ある教育活動のあり方について、本審議会から答申をいただき、一次方針として、飯田学園構想やその中で取り組む小中一貫教育により、特色があって魅力のある教育を各学園で進めているところでございます。飯田学園構想では、今年度から「みらい創造科」の授業が始まり、こどもたちがとことん夢中になっ	

て、ワクワクしたり、ドキドキしながら探究をしていくという学びを求めてスタートしたところでございます。

- ・そして、本審議会は昨年度と今年度の2年間で、二次答申をいただくために審議を進めていただいておりますが、その中身はご存知のとおり、これからの学校の配置・枠組みのあり方についてでございます。まさに少子化、そして、学校施設の老朽化など、様々な課題を抱えている中で、どのような方向で考えていったら良いかと、昨年度からご審議をいただいているところでございます。
- ・今年度、新たに4名の委員の皆様方をお迎えして、本審議会をスタートするわけですが、スタートラインが少し異なりますので、事前学習にもご出席をいただき、概要をご理解いただいたかと思っております。
- ・先日の市議会一般質問でお尋ねいただきましたが、学校教育が魅力あるものになって、地域移住につながらないかというご質問でしたが、そもそも飯田学園構想で目指しているものは、それぞれの学園、学校がこれまでの歴史や地域とのつながり、保護者の皆さんの関わり等を生かして、魅力ある学園になって、通いたい学園、通わせたい学園を目指すということです。それだけではなく、さらには現在ご審議いただいている、そのためにはどういった配置・枠組みであつたら良いのかということも含めてご審議いただく状況になっているところでございます。
- ・遠山郷学園では、遠山小学校という校名で再編することで準備を進めておりまして、非常に準備期間が短いものですから、合同生活授業という実質的再編の形をとりながら、少しでも子どもたちにとってより良い教育環境をつくっていくというところで進めており、現在、校歌や校章について、子どもたちも一緒に考えている状況でございます。詳しくは後ほど報告いたしますが、いずれにしても、この飯田市においても、喫緊の課題であるこれからの学校のあり方について、これから答申をいただくためにご審議をいただきますので、ぜひ、それぞれのお立場で活発な意見をいただいて、より良い方向に導いていただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 後藤会長あいさつ

- ・続いて、私からも一言ご挨拶させていただきます。改めて申し上げますが、先ほど自己紹介をいただきました4名の委員の皆さんを迎えて、令和8年度の本審議会がスタートいたしました。リモートでご出席いただいている坂野委員、井出委員はじめ、委員の皆様方、また事務局の皆様を含め、一年間どうぞよろしくお願いいたします。
- ・コロナ禍の令和2年12月15日から2年半に渡りました「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会」を終え、そして、令和5年5月25日に設置されました「飯田市これからの学校のあり方審議会」には、2つの事項が諮問されました。その一つである「特色と魅力ある教育活動のあり方」については、令和6年4月11日に一次答申をいたしました。学園構想の有効性を認め、妥当であると判断したものであります。
- ・昨年度からの本審議会では、もう一つの諮問事項「飯田市立小中学校のこれからの配置・枠組みのあり方」について協議を続けているところでございます。
- ・本年度はいよいよ二次答申に向けて、また事務局策定の二次方針案についても、協議をしていけたらと思っております。
- ・事務局におかれましては、毎回、協議された内容をつぶさに整理し、その資料を事前に私どものところに届けていただいていることに改めて感謝申し上げます。
- ・委員の皆様、事務局の皆様、またオブザーバーとして見届けてくださっている北澤様、本審議会が心ゆくものになりますように、ご協力ご支援のほどお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

4 報告事項

(1) 令和7年度第4回審議会の振り返り

- ・事務局から資料No.5「令和7年度 第4回審議会の振り返り」に基づき報告

(2) 遠山郷学園における小学校の再編について

- ・事務局から資料No.6「遠山郷学園における小学校の再編について」に基づき進捗状況を報告

5 協議事項

(1) 論点2 課題を共有するための課題の明確化について

ア 学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題について

(ア) 上沼教育政策課長から資料No.7に基づき、学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題について説明

(イ) 意見交換

(原委員)

- ・ 現在、竜東学園内では各地区検討委員会等で検討を始めたところ。竜東学園内では、千代小学校と千栄小学校が既に複式学級があり、上久堅小学校はあと数年で複式学級になる状態で、小規模の良さよりも課題の方が大きくなっている様子が見受けられるため、これはもう、早く一緒になりたいという保護者からも、地域の方々からも意見があり、教育委員会とも相談しながら、検討を進めている。
- ・ 遠山郷学園では、以前から地域で検討を進めていた関係で、報告のとおり再編が進んでいたが、竜東学園では、保護者からのご意見があり、将来が非常に心配だということで、1・2年前からPTAで検討し、まちづくり委員会にもお話をいただき、地域での検討が動き出した現状。竜東学園に関わる3地区としては、しっかり検討し、教育委員会からもご意見をいただきながら進めていきたい。

(松岡委員)

- ・ 川路小学校はまだ複式学級になる可能性はないが、竜峡学園内では三穂小学校が数年の間に複式学級の可能性があるので、この条件に当てはまってくる。
- ・ その方向性として、竜峡学園では川路小学校、三穂小学校、龍江小学校と一緒に児童の交流を実施したり、合同職員会をしたりしている。
- ・ 保護者の方の不安がまちづくり委員会へ伝わって、地域が動き出したという先ほどのお話を聞いていると、三穂小学校が実際に複式学級になった時に、竜峡学園内でも同じような動きが出てくるのであろうと思った。
- ・ 複式学級については、県教育委員会が小規模校の豊かな研究加配で一応付けてはくれるが、現在、教員不足で加配教員が入るはずが、入っていないという学校もある。複式学級でやっている学校もありますが、やはり教材研究にとっても時間を要しますし、そもそも教員数が少ないので、加配教員を複式解消というよりも教科担任制に充てる等、それぞれで工夫をしている状況。
- ・ 先ほどの学校運営が立ち行かなくなり学校の工夫だけでは対応できなくなる状況については、教員数が不足していることで、学校での工夫では追い付かない状況になっているところもある。

(玉置委員)

- ・ 遠山郷学園では、とにかく上村地区も南信濃地区もこどもの人数が減っていくことは、前々からわかっている中で、上村地区が平成29年から小規模特認校制度を取り入れて、上村小学校に来てもらうという取組を進めてきた。
- ・ その後、和田小学校の児童数の減少をどうするかとまちづくり委員会等で協議する中で、令和7年5月から遠山郷学園会議を組織し検討を進めてきた。
- ・ 今日の資料に関して、学校規模が小規模である良さについては、まさにこのとおりだが、課題となる部分もこのとおりであり、この課題をどうやって解決するのかということを地域や学校、教育委員会とも相談しながら再編を進めていくしかない決め、現在、進めているところ。

(村山委員)

- ・ 資料にはマイナス面も多いということもありますが、上村小学校では意外とそうでもなく、保護者も納得して少人数の学校に通わせている。やはり地域や学校がとても努力や工夫をしてくれていると実感している。そのため、学校運営が立ち行かなくなるという状況まで悲観する必要はないと思う。
- ・ しかしながら、上村地区も南信濃地区も何年も前から、このままでは大変なことになるという状況がわかっていながら、なかなか具体的な話が進まず、本当にどうしようもない状態になってから急に小学校を再編するという話になっていった印象がある。
- ・ 現在も令和9年4月の完全再編に向けて、校歌や校章を早急に決めていかなくてはならないという状況で、本当は長い年月をかけて話し合い、決めていくべき内容だと思うので、

資料にあるとおり、今後5年以内に複式学級になる可能性がある学園については検討を始めるということは、このとおりだと思う。

(佐々木委員)

- ・私の経験から考えると、単純に小規模だから弱みだと言えるかどうかということは感じている。地域の皆さんは、本当にその学校を支えようと思って、こどもの人数に関係なく、一生懸命協力してくださっている。そこは強くお話ししておきたいと思います。
- ・ただ、それは10年前の話ですので、世代によって思いが異なることがあると思うが、地域の火を消したくないという思いから、千代地区に千代保育園と千栄保育園の2園を残そうとしてきた地域の方にとっては、学校も支えるために一生懸命努力や工夫をされてきたと思う。学校でも、競争心を育てることもできているし、様々な工夫で一人一人の力を付けようとしている努力があったことはお伝えしたい。
- ・しかし、学年で1人や2人では、負担もあり、協働的な学びの課題も出てきますので、教育活動や学校運営が成り立たなくなるということは理解するので、学校の配置・枠組みを検討していくことで適切な人数になり、飯田学園構想の小中一貫教育により、学校も努力や工夫を凝らし、より良くなっていくという考え方は大事にしたい。
- ・公民館の立場としては、学校の先生方と一緒に活動し、こどもたちの体験や学びを支えていくという大事な役割であるということは、飯田学園構想でますます学校と地域や公民館が互いに頼り頼られる関係性になるのは、ありがたい環境になっていくのではないと思う。

(井出委員)

- ・本日の資料を見ると、本当に丁寧にこの間の経過をまとめて、一つの方向性に行きついてきたと思う。
- ・大きい方が良いか、小さい方が良いかという議論、あるいは大きいから駄目、小さいから駄目という議論ではなくて、元々大きければ大きいなりに、小さければ小さいなりにそれぞれ良さがある。小さな学校がさらに小さくなっていても、持っている良さは残るわけです。
- ・しかし、小規模の良さが得られなくなる状態、または、課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態かということについては、ほぼ意見が出し尽くされ、皆さんが共通理解できたのではないと思う。それらを踏まえて、小規模の良さが得られなくなったら次の方法を考えなくてはなりません。
- ・先ほど佐々木委員がお話されたことで大事だと思ったことは、これまでも保護者や地域が学校に対して一生懸命関わり、先生方も一生懸命やってくれている。その思いを大事にしていかななくてはならないのは全くそのとおりであり、今後どういう学校をつくっていくかということを考える時にも、同じようにこの考え方を踏襲していかなければいけない。つまり、これまで努力してきた結果が全て無くなってしまいうのではなく、学校のあり方を考えていく時に、これまでの取組を生かしていくという考えが大事だと思う。
- ・地域と学校との関係、児童生徒と先生との関係、あるいは学校を取り巻く様々な関係が、みんなで新しい学校を盛り立てていくという形で結集していけば、この間の議論は生かされますし、さらに深い議論になると思います。

(坂野委員)

- ・前回審議会のまとめの資料を改めて読ませていただくと、皆さんが丁寧に客観的な議論をされたということが、まず一番大きな印象。
- ・特に、小規模教育の良さが得られなくなる状態または課題を補いきれなくなる状態という部分が大切なところかと思う。
- ・もちろん学校は近くにあった方がそれぞれの人たちにとって落ち着くわけですが、本審議会の当初から議論している、こども中心、こどもファーストの考え方でいくと、この状況になるとプラスの部分よりマイナスの部分の方が大きくなってしまいうということについて、皆さん共通の意識を持つことができたのではないかと。
- ・これまで取り組んできたことは、その後も、こどもの中にも先生の中にも残っていくことになりまうので、まさにこうした状態になってしまってから考えるというよりも、いつ頃からこういう状態に近くなるので、どうしましょうかということは何らかの形で、地域の方たちで話し合っていけると良いかと思う。

(ウ) 方向性の確認

(後藤会長)

- ・ お聞きしている限りにおいては、ほとんどの皆様のご理解、ご同意いただけたのではないかと感じている。
- ・ 本日の審議会で私たち全員が理解し、同意したことを二次答申につなげていくため、皆様に確認する。学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題について、グループワークで意見をまとめた資料 23 ページの内容を答申に向けた方向性のベースにし、本日、委員の皆様のご意見を踏まえて、答申につなげていこうと思いますが、よろしいでしょうか。
- ・ 異議なしの声多数
- ・ それでは、資料の内容とご意見を踏まえて答申につなげさせていただく。

(1) 論点 2 課題を共有するための課題の明確化について

イ 学校の施設面から見る喫緊の課題について

(ア) 上沼教育政策課長から資料 No. 7 に基づき、学校の施設面から見る喫緊の課題について説明

(イ) 意見交換

(會川委員)

- ・ 丘の上では飯田東学園の 3 校が該当することになる。
- ・ 地区の中で正式に話し合いはされていないが、丘の上 5 地区の会長会では、飯田東学園、飯田西学園とかではなく、丘の上学園に絞るしかないという話が出ている。飯田東学園の 3 校の学校施設が使えなくなる時が近い将来必ず来るから、飯田西学園の丸山小学校と飯田西中学校を含めて一緒にやっていくことがいいたろうという話をしている。
- ・ ただし、実際に地区住民の考え方を踏まえた話ではなくて、あくまでも、こどもたちの教育環境として、そういった建物ではいけないだろうという話が強く出されている。
- ・ 今のままの状態では、大きな震災があると飯田東学園の学校が使えなくなってしまう可能性が高いので、今から丘の上の一つにまとめていくしかないのかという話を 5 地区会長会でしている。

(飯島委員)

- ・ 緑ヶ丘中学校は、飯田市内で最新の学校施設設備ですが、築 30 年が経過、使われ方も多少ハードで、新しい状態が保たれているとは言いきれず、修繕できたらいいと思う箇所は多数出てきている状況。より快適な校舎であることに越したことはありませんが、学校予算だけでは修繕できず、悩ましいところ。
- ・ ただやはり、もうこれ以上は使えないという学校施設に関しては、どうにもならなくなってしまうと感じる。

(勝野委員)

- ・ 建設当初より、確実に学級数が減っているので、児童生徒数から見れば、そこまで大きな施設や教室数が無くても成り立つのではないかと。
- ・ やはり日々の保守管理等でランニングコストが無駄に掛かってしまうと思うので、今後の大規模な施設改修の時には、減築をしていくことも一つの手ではないかと。
- ・ また、市内で最も古い追手町小学校も何年前に大規模改修を行っていると思う。それにも関わらず、改築していかないと安全性が保障されないということだと、せっかく工事をしてももったいないと思う。

(井出委員)

- ・ **これは難しい課題。**
- ・ 法令に基づいて考えていくと、安全基準を下回っている学校施設については手を打たなければならず、放置しておくとな行政の不作为となってしまう。しかし、先ほどご発言がありましたとおり、飯田東学園、飯田西学園と個別に考えるのではなく丘の上学園として考えていく必要があるのではないかとというご意見を踏まえると、様々な議論も出てくるのではないかと。
- ・ 例えば、追手町小学校は旧市内の中核校として、明治以降、日本の近代教育の流れと共に歩んできた学校であり、他の学校も同様。明治の学制発布から各村々に 1 村 1 校の学校がある。市町村合併によって飯田市になったが、この **1 村 1 校を残すか統合するかという議論は出てくるわけで、さらに、どこの場所に改築するのか、学校再編して新たな学校として新築するのか等、いずれは具体的に検討する時期が来る**と思う。

- ・ いずれにしても、教育委員会が整理した法令に基づく考え方に対しては、いずれ具体的な策を講じなければならないと思われるので、細かな資料をもとに事務局を中心に提案していくことも大事ではないかと思っております。

(島岡委員)

- ・ 今朝、フィリピン南部沖で大きな地震があり、現地では建物の倒壊があったという報道を観た。学校施設でも同様のことが起こり得ることを想像すると、これからの社会を支えていく子どもたちの命が奪われる可能性があるのであれば、検討していく必要がある。
- ・ また、学校再編を考えていく場合に、子どもの登下校に関わって、保護者が送迎するとなると、保護者の負担も大きく、送迎できない家庭も出てくるかもしれないので、スクールバスも一つの手だと思う。学校が統合され、浮いた費用をスクールバスの費用にしてもらえれば、登下校の課題が解消されるのではないかと思う。ぜひ、児童生徒の住む場所を考慮して、安全に学校に通えるような対応を考えてもらえると良いと思う。

(佐々木委員)

- ・ 追手町小学校も浜井場小学校も伝統ある校舎であると同時に、地域の方にとっては大切な校舎であると思うが、実際に子どもたちの命に関わること、安全な学びの環境ということを考えれば、今回のように建替え等が必要になると思う。
- ・ しかし、ただ建替えすれば良いということではなく、飯田学園構想の際にも課題として挙げられたが、東野地区の通学区の見直しも検討が必要になってくる。飯田東学園、飯田西学園の両学園を含めた検討がされるのであれば、組織体制等も含めた地域のあり方、地域と学校との関係等、同時に発生してくる課題についても、地域の皆様の声を聞きながら考えていかななくてはならない。単純に建替えすれば良いというわけではないということを感じている。

(ウ) 方向性の確認

(後藤会長)

- ・ これまで皆様から出されたとおり、具体的な意見等が出されるためにも、事務局により整理された考え方をみんなで共有する課題とすることについて、今のところ反対のご発言はなかったと思います。
- ・ この考え方を答申につなげていこうかと思っておりますので、お諮りいたします。それでは、学校施設面から見る喫緊の課題について、事務局から示された内容を答申につなげていきたいと思いますが、この考え方に賛成いただけますでしょうか。
- ・ 異議を申し立てる委員なし
- ・ それでは、全員一致で、資料の内容と本日いただいたご意見も参考にしながら、答申につなげていくこととする。

(1) 論点2 課題を共有するための課題の明確化について

ウ 協議・検討を開始する学園及び協議・検討の順番について

(ア) 上沼教育政策課長から資料No.7に基づき、協議・検討を開始する学園及び協議・検討の順番について説明

(イ) 意見交換

(會川委員)

- ・ 施設面から見る喫緊の課題から飯田東学園が対象となり、改築をする場合、全て鉄筋コンクリートで検討をしていくように感じられるが、これからの時代、より耐震性が高く、より改築がしやすい鉄骨造や木造は考えていかれないのか、質問する。

(事務局)

- ・ 現時点で明確な考え方はない。

(ウ) 方向性の確認

(後藤会長)

- ・ 特にご異議なしということでよろしいでしょうか。
- ・ 異議を申し立てる委員なし
- ・ それでは、全員合意で、資料の内容と本日いただいたご意見も参考にしながら、答申につなげていくこととする。

(2) 論点3 学園地域における協議・検討期間及び時期

ア 上沼教育政策課長から資料No.8に基づき、学園地域における協議・検討期間及び再編する場合の準備期間の標準と学園ごとの検討時期の2点について、一括して説明

イ 意見交換

(島岡委員)

- ・ 中核教員の配置に関する質問ですが、中核教員は通常の教員とどのような違いがあるのでしょうか。

(事務局)

- ・ 基本的には授業を受け持ったり、クラス担任をしたりという先生ではなく、学校再編をしていく上で、児童の学習面や学校生活、日課等のすり合わせ、学校内の業務等のすり合わせを行う必要があるため、両校の教員同士で検討し調整をする専門の先生である。
- ・ 中核教員の加配に関しては国の制度で、国から県に交付金が出され、県教育委員会で人事配置していただいている。

(三浦副会長)

- ・ 何らかの形で再編を考えていくには、こんなに長い期間が掛かるのだと改めて思った。そう考えている間にも少子化が進むであろうし、校舎の老朽化も進んでいくとなると、学園内の学校のあり方を考えていくことを先送りしてはいけないと感じた。
- ・ これまでの協議を聞いていて感じたところですが、審議の中で、学校再編に伴い、これまでの学校の良さが無くなってしまうのではなく、これまでの取組や想いはこれからに生かされ、引き継がれていくものであるという考え方は非常に大事だと思う。
- ・ 消えて無くなっていくのではなく、共にまとまるという感覚なのだとすることも感じられ、これまで私たちの地元の学校教育というものが、地域の人たちの様々な思いの中でつながってきていることを頭の隅に置きつつ、学校再編という考えに行き着くのであれば、丁度振り返る良い機会になるのかと思った。
- ・ 佐々木委員から出された意見で、学校のあり方の検討に伴い、同時に発生してくる課題についても考えていく必要があるとのことだが、本当に長いスパンで様々な課題等も含めて考えていくことで、これだけの長い期間を持って、こどもまんなかで、こどもたちのより良い学習環境が整えられるという、飯田市の学校のあり方の検討ができれば良いなど感じた。

(久保田委員)

- ・ 事前に資料を読み、またここまでの議論を聞いていると、ある程度の方向性が見えてきているように思える。
- ・ このことに対して意見があるわけではないが、とにかく早め早めに若い人たちに知らせていかないといけない。学校の再編のようなお話があったが、地域に残って再編を待つよりも、その地域から出ていってしまう若い人もいる。学校のあり方の検討をしていることを知らずにいると、学年で1人くらいの教育環境はどうなのかと考え、この地域にいてもしょうがないと思い、他の地域へ行くようになって、さらに地域の過疎化が進んでしまう。
- ・ とにかく検討している内容や考え方を若い世代、これからこどもを産み育てていく世代に伝えていってほしい。
- ・ また、このような場に出てきて初めて、このような検討が行われていることが分かり、危機感を持つことができた。先ほどと重複するが、手遅れになる前に、学校のあり方の検討が進んでいるということをどんどんPRしてもらいたい。

(北沢委員)

- ・ 現在、入船幼稚園にこどもが通っているが、保護者同士の会話の中では、飯田東学園の現状を知っている保護者の方は、実際にこどもの人数が少なくなってきたいて、これからのことが不安に感じている声を現実聞くことができる。
- ・ 私自身は、鼎地区なので、そこまで気にしたことはないが、保護者同士の話を聞く中で、この審議会での考え方を聞けて、とても良いことだなと感じた。これからどうなっていくのか、これから話し合っていくことかと思いますが、少し明るい話があるのだと感じた。

(坂野委員)

- ・ 恐らく多くの方が、こんなに長くかかるのだと感じられていると思うが、私が今まで関わってきた他の自治体と比較すると、やはり一定の時間はかかるということがまず一点。
- ・ 飯田市は実はとても丁寧に進めてらっしゃるという率直な感想。他の自治体では、反対が出ないように情報を抑えながら進めて、最後に方向性を出して議論を進めていくという半

ば強引なやり方をするとところも見受けられる。それに比べると、非常に情報を早い時期から出されて、ある程度期間も提示した上で、より良くするためにどうするかということをみんなで考えるやり方でやろうとしていることがすごく伝わってくる。

- ・この内容で決まっているわけではない。これから具体的にどうしていったら良いのかを学園地域の単位で考えていくことになる。例えば、島根県の隠岐の島のように、何らかの町おこしみたいなことで、人口が増えていけば、この学校は単独でやっていくということになるかもしれない。それはまさに、これから先のことになるので、可能性はある。
- ・ただ、現時点の状況で、このまま大きな変動がないとすれば、資料にあるとおり、これくらいの時期から検討を始めていくことになって、学校再編ということが可能性としてあることを踏まえて、これからの学校のあり方をどうしていったら良いのかということを、皆さんで議論していただけると良いと思う。

(ウ) 方向性の確認

(後藤会長)

- ・4名の委員からご発言いただいたが、示されたこの考え方は、皆さん受け止めてくださっていると思う。
- ・学園地域における協議・検討期間及び再編する場合の準備期間の標準として7カ年を想定し、学園ごとの検討開始時期を資料9ページのように想定し、概ね10年で対応するという事務局から示された考え方、スケジュール感について、本日いただいた皆さんからのご意見も踏まえて、答申につなげてまいりたいと思いますが、いかがでしょうか。
- ・異議を申し立てる委員なし
- ・本日の協議事項は以上となります。

6 連絡事項

7 閉会挨拶 三浦副会長

- ・新年度、第1回目の審議会ということで、新たに4名の委員の皆さんをお迎えし、審議会をスタートした。5月末には、審議会のこれまでの内容の説明会という形で内容をご確認いただき、本日の審議会に臨んでいると聞いている。新任委員の皆様へ感謝する。
- ・昨年度まで審議会委員をされていた方が、昨年度最後の審議会終わりに私のところにいらっしゃって、「こんなにも学校のこと、こどもたちのことを真剣に考えている場があったのですね。とても心強く感じました。」ということを言われた。
- ・ここでの審議の内容は、本当に難題で、早速、明快な回答が出るといったものではないが、今回、論点2、論点3の審議を終え、方向性が具体的にになってきたと感じている。新たな委員の皆様も、自分事と捉えていただき、率直なご意見をいただいた。私も学べるところが多くあった。
- ・もう早速、来月3日に第2回審議会となる。学校のこと、こどものことを真剣に考える場がある。また、ご参集いただきたい。
- ・これをもちまして、令和8年度第1回飯田市これからの学校のあり方審議会を閉じる。
- ・皆様、大変お疲れ様でした。